

# 「本に親しみ、本を楽しみ、本に学ぶみずほの子の育成」 ～「読書のまち みずほ」をめざして～



子どもたちに読書習慣を身に付けて欲しいと瑞穂市でも様々な取り組みがされています。ご家庭で是非、読書の時間を共有して頂ければという思いから保護者向けの子育てに関係する本を紹介していければと思います。瑞穂市図書館で貸し出しされている本を紹介していく予定です。



## 〈叱る依存〉がとまらない

紀伊國屋書店  
村中 直人 //著



小学校に入学してから娘を叱ることが多くなったように思います。宿題から始まり、明日の準備、朝の支度、月曜バタバタしながら送り出したはずなのに、娘の上靴が玄関にある…色々ありますが、とにかく学習面の心配から宿題の時に叱ってしまう事が多かったです。

皆さんもお子さんを叱る時があると思いますが、共通しているのが叱る側が持っている“あなたのために言っている”

という気持ちだと思います。

この本では“叱るという行為”を“言葉を用いてネガティブな感情体験を与えることで、相手の行動や認識の変化を引き起こし、思うようにコントロールしようとする行為”と定義しています。これだけ読むとゾッとしますよね。

他者を変えようとする手段では“指導する”“説明する”“なだめる”“諭す”“促す”などありますが、これらと“叱る”の違いは、叱る側は叱られた側に『ネガティブな感情体験を与える』ということです。この『ネガティブな感情体験』から回避するために、叱られた側は、言うことを聞いたり、謝ったりする。なぜ叱られたのかという学習には結びつかず、『叱られたときに、どうすればいいか』というその場しのぎの対処法しか学習できないそうです。それを叱る側は、叱った事で効果があったと勘違いし、叱ることがやめられなくなる…。

叱られる側だけでなく、叱る側の脳内では何がおきているのか、なぜ叱ることに依存してしまうのか、分かりやすく書かれています。親と子ども、先生と生徒、上司と部下など、家庭や学校、職場などでも当てはまることだと思います。

瑞穂市図書館分館で貸し出ししていますので是非、読んでみてください。

(この本を紹介するにあたっては出版社に了承をいただいております。)



西小学校 PTA